

白壁

第 02 号 平成 28 年 5 月 2 日発行
題字 福井陽子



連休明けのテストに向けて

新学期がスタートして一カ月が経ちましたが、学校生活のペースをつかむことはできたでしょうか？特に1年生は心身ともに疲れが出るころです。この連休を機に学習方法や時間の使い方を検討し、改善点を明確にして早く「高校生の生活スタイル」を確立させてください。部活動の大会が間近に迫り多忙な毎日ですが、先日受験した実力テスト等を振り返り、自己の課題の穴埋めをして連休明けの実力テスト（3年）5月テスト（1・2年）に臨んでください。「**計画性と継続性、徹底的な反復**」が重要です。これに勝る道はありません。焦らず地道に頑張りましょう。

特集

高校でどのように学ぶべきか？

— アドミッションポリシーと入試問題から見えるもの —



突然ですが、みなさんは何のために青森高校に入学し、どういう意識をもって、どのような学習をしていますか？あらためて尋ねられると、返答に窮する根本的な問いですが、大型連休という、つかの間の余白に、ちよつと考えてみましょう。

求められているのは英語力？

ところで皆さん、東京大学の二〇一六年「英語」の問題はもう見ましたか？その問の中に、次のようなものがありました。これは

いわゆる「自由英作文」ですが、皆さんならどう解答するでしょう？

問 下の画像について、あなたが思うことを述べよ。全体で60～80語の英文で答えること。



画像は日本経済新聞社 HP より

画像は、じゆうたんに寝そべる猫、それを「つまもうと」している手指です。もちろんつまめる猫などいませんから、これは遠近法による錯覚です。設問文は「思うことを述べよ」という極めて自由度の高いもので、一読すると「何を書いてもいい」ように感じますが、逆に言う「何を軸にして書いていいかわからない」ものでもあります。もうわかつたと思いますが、この問題は英語による「表現力」以前に、「視点」「思考力」「判断力」「発想力」といったものがまず求められています。むしろ英語の問題を手段として、それらの能力のほうを試そうとしていると言えるのではないのでしょうか（日本語文でよいので、解答を作成してみてください）。

アドミッションポリシーはお題目？

東京大学の「アドミッションポリシー」期待する学生像は以下のようなになっています。よく読んでから、右の設問に込められた「メッセージ」を読み取ってみてください。

期待される学生像

何よりもまず大切なのは、上に述べたような（編集者注：ホームページ「東京大学の使命と教育理念」参照）本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題に関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

（傍線は編集者、本文は東京大学 HP より）

まず皆さんは「視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも」という一節にはっとしたのではないのでしょうか。受験への焦りから「受験科目にないから勉強しない」「行事は受験に関係ないから意味がない」などとうそぶき、独りよがりで浅薄な功利主義に走ってはいませんか？東大のみならず、世の大学はそういう人を「歓迎」しないのです。なぜなら、未来を担う人材を育成する社会的責務があるからです。上の英語の問題は、東大が期待する学生をとるために設計されています。自分が志望する大学のアドミッションポリシーを精読し、次に入試問題を解いてみてください。そこに「高校でどう学ぶべきか」の答えがあります。

	1 学年	2 学年	3 学年
5 月の目標	中学校との違いを知る	部活と両立! 理科・地歴の授業についていこう	進路達成への一歩を踏み出す

●行事レポート1 旧3 学年担任による講演会

4 月21 日(木)

3 学年生徒全員を対象に、昨年度の3 学年担任・千葉純一先生・大井寛子先生からご講演をいただきました。千葉先生からは、「自分の受験に関係ない教科でも分け隔てなく興味・関心を持つて自分の視野を広げ、あらゆる教科の知識を関連付けて思考する生徒が難関大に合格していた」というお話を聞くことができました。大井先生からは「『進路ノート』を一冊用意して、志望理由をまとめたり、学部や学問分野に関する記事のスクラップをしたりして、何としても志望する大学に入りたい! という熱意をモチベーションにして頑張つてほしい」とアドバイスをいただきました。昨年の指導を通じての実際の助言は、新学期早々、非常に刺激になっていました。



●行事レポート2 Sプロジェクト・Mプロジェクト

3 学年対象進路講演会 医学部志望者対象講演会

講師 駿台予備学校 村井孝光 氏

4 月27 日(水)

駿台予備学校で高卒クラスを担当をされている村井孝光さんをお招きして、進学・受験の心得をお話しいただきました。全体への

講演では、およそ4 万人もの高卒生が大学に入学したにもかかわらず、安易な進路決定を後悔して再受験しているという事実を提示し、妥協せず「入りたい大学」を目指すことが大切であると強調されていました。そのためには、自分の目標をかなえられる大学かどうかを徹底して調べ、「惚れぬく」ことが不可欠だということです。また、難関大に合格する生徒は、特別な知識をもつ 難問に強い生徒ではなく、基礎的・標準的な問題で失点しない「穴のない」人であることを挙げ、高校の授業・教科書レベルを徹底し完璧にすることが重要だと熱く語っていただきました。



医学部志望者対象の講演会では、医師に求められる資質、入試に必要な力についてご講演をいただきました。村上先生によると、「医学部入試の難しさ」とは、試験の難易度にあるのではなく、高度な「発揮学力」が求められることにあるそうです。「発揮学力」とは、時間配分やプレッシャー、不測の事態などの「問題の難易」以外の阻害要素を乗り越え本番で実力を発揮できる力のことだそうです。この阻害要素を普段から想定して学習せよ、との助言をいただきました。また、「医学科の入試は確かに難問奇問も出題されるが、自分の手に余るものを見極め、平易な問題から標準的なものを完璧に解く冷静な判断力を

見ている。これは、医師として患者の病気が自分に対処できるものか否かを判断し、できないものは専門家に任せる、という決断力に通ずるのだ」というある大学教授の言葉も紹介していただきました。実際に、医学部に合格した生徒は、実力以上の難問・奇問は解けずに終わるが、基礎・標準レベルは本番で確実に正解していたそうです。難問ばかり解きたがる「受験マニア」的な生徒は、「発揮学力」が低いため合格できないそうです。

結びに「死や危険など、人が避けたいものすべてを引き受けるのが医師という仕事。その覚悟と使命感をもって、いい医者になってほしい」とエールを送ると、生徒たちは一様に感銘を受けた様子で、医師になる覚悟を新たにしました。

5 月の進路関係行事

11 日	水	3 年	実力テスト[文●地歴・公・数/理●地歴・化・数]
12 日	木	1 年	5 月テスト[英語・数学・国語] + 講演会
		2 年	5 月テスト[英語・数学・国語]
		3 年	実力テスト[文●英・理・国/理●英・物/生・国]
13 日	金	3 年	東大志望者対象講演会(放課後)
24 日	火	3 年	推薦・AO 指導申込〆切(指定校推薦除く)

編集後記

○先日、推薦AO受験希望者への説明会を実施。受験に向かう姿勢や対策法、準備の進め方を説明しました。百五十名もの生徒が真剣に聴き入る姿に感心。教員と生徒・生徒同士のチームワークで合格目指して一緒にがんばろう!

○連休中の宿題は計画的に。メモ程度でいいからスケジュール管理をして、実りある学習を。テスト目前ですよ!(あ)